

# NEBAMURA



令和7年(2025年)-令和16年(2034年)

## 第6次 根羽村総合計画

長野県下伊那郡根羽村

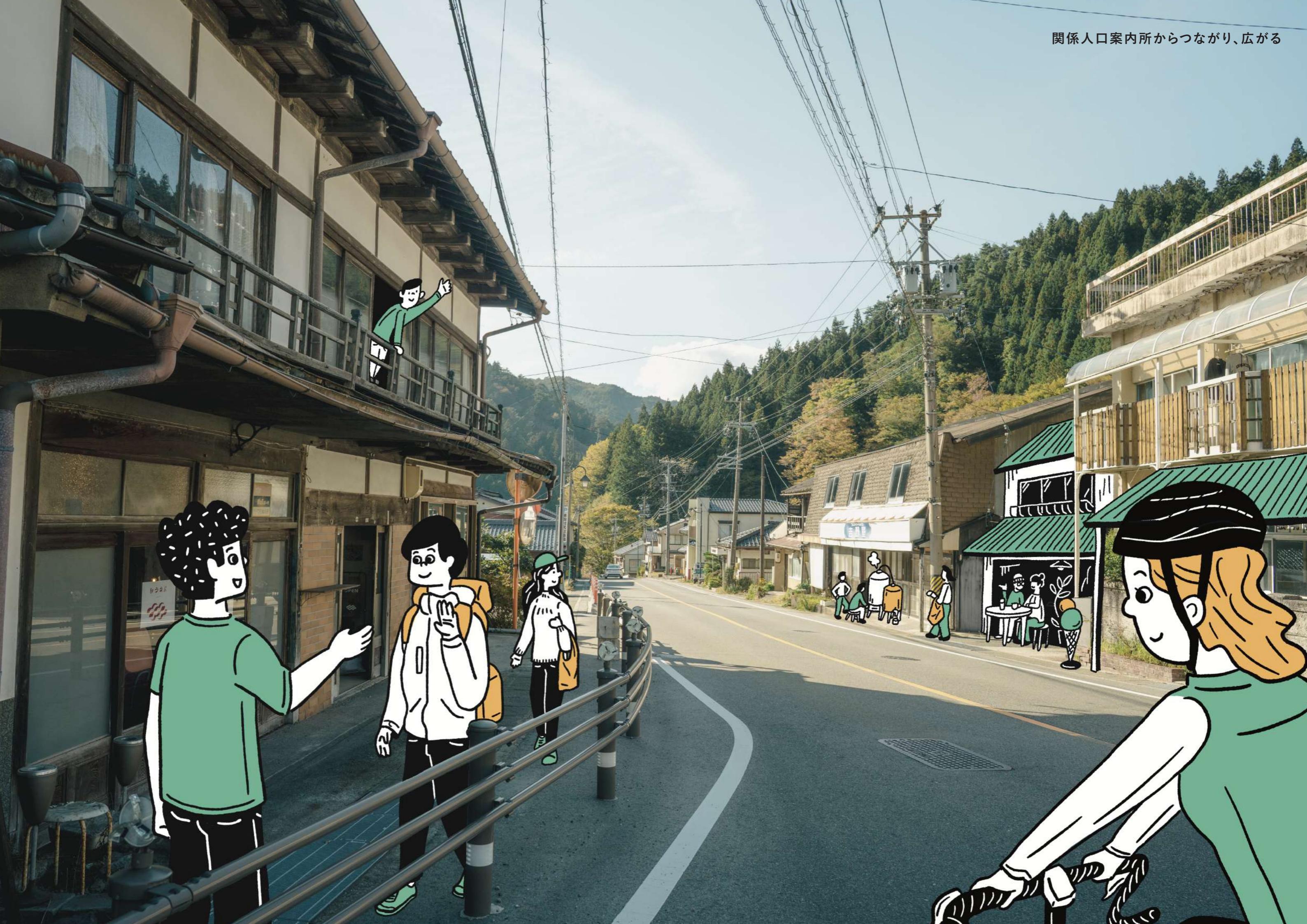
第3会議室 / 図書館  
相談室 / 保健診療室  
やまあいホール  
→



水源の地で清流に触れ森を感じる



関係人口案内所からつながり、広がる



村内外のつながりがあふれる

# NEBA VISION NEVER FOREST

いまだかつてない森

第3会議室 / 図書館  
相談室 / 保健診療室  
やまいいホール



根羽村のシンボル、月瀬の大杉とこれからもずっと一緒に



# もくじ

## 01 村の未来をイメージしてみる

水源の地で清流に触れ森を感じる/  
関係人口案内所からつながり、広がる/村内外のつながりがあふれる/  
根羽村のシンボル、月瀬の大杉とこれからもずっと一緒に

## 31 根羽村のこと

地政・人口・暮らし・産業/根羽村の兆し

## 09 基本構想としてのネバーギブアップ宣言2.0+α

ネバーギブアップ宣言2.0/地域産業方針・関係人口方針

## 36 村長挨拶

## 38 データ集

策定の経緯/それぞれの声・アイデア

## 14 戦略・指針

戦略・指針の全体像/住み続けたい村づくり/  
学びの村づくり/人と経済が循環する村づくり

## 24 村の挑戦プロジェクト

<参考>根羽村教育大綱

# 2025-2034年度 第6次根羽村総合計画

## 1.計画策定の趣旨

人口減少や気候変動危機など、急速な変化のなか数多くの課題が山積する、私たちの社会。根羽村でもいま、地域の特性や資源を最大限に活かしながら”どのようにすればこの村に集う人々の心が満たされる状態にできるか”を考える時期にきています。

根羽村では2021年より、「20年後の夢」をテーマにした全村民インタビューを実施してきました。ここに集まった全世帯の84.4%からの回答を足がかりに、改めて村民や村関係者を対象にした「20年後の根羽村について考える会」を開催。こうした村民の声のなか生まれたのが、ともにしあわせに生きていくための方向を示す「ネバーギブアップ宣言2.0」です。

第6次根羽村総合計画は、この宣言で描いた夢に向けて、これからの10年でどのようなことを実現していくかを考え、策定されたものです。

## 2.計画の位置付け

### 村に住む人や関わる人にとっての計画

本総合計画はありたい姿の実現に向けた村づくりの道しるべ(指針)となるべく、策定されたものです。

よってこの計画は、村民一人ひとりにとって、これから的生活と地域のあり方を考えるための道しるべになることをめざしています。

日々の暮らしの中で、「この村で暮らすってどういうことだろう」「この村をどんな場所にしたいのだろう」と考えるとき、立ち返る場所として。また、「どの山に皆で登るのか」「どこへ向かうのか」を示し、村に関わる多様な人の「やってみよう」を力強く後押しする指針として、村に関わる人々に折に触れ役立てられることを願っています。

## 3.計画の期間

2025年度(令和7年度)から2034年度(令和16年度)までの10年間とします。

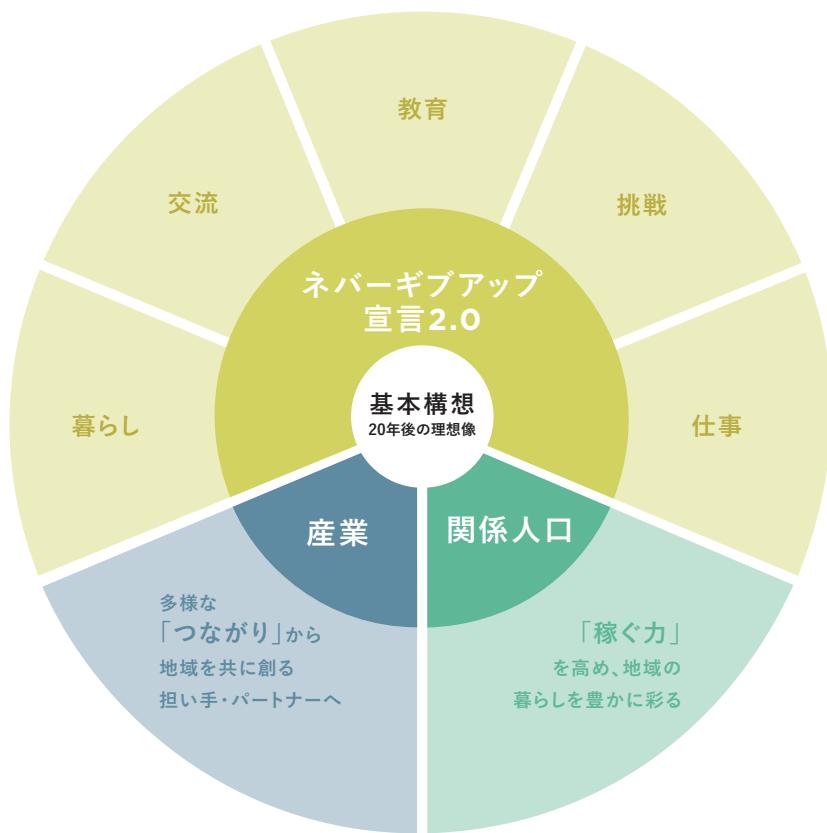
# **基本構想としての ネバーギブアップ宣言2.0+ $\alpha$**

- 1 ネバーギブアップ宣言2.0
- 2・3 地域産業方針・関係人口方針

# 一新された「ネバーギブアップ宣言」に 産業・交流の視点を加え、基本構想に

村民が主体となり、20年後の夢を描くべく一新した「ネバーギブアップ宣言2.0」は、本計画の中核をなすものです。

ここに、暮らしを支え豊かにする基盤としての「産業」、これからの地域の可能性を考えるキーワードとしての「関係人口」の視点を加えたもの(+ $\alpha$ )を、第6次根羽村総合計画の基本構想として位置付けています。



## \*ネバーギブアップ宣言

平成の大合併の時、全国各地の小さな山村が大きな町や市と合併する中、根羽村は合併せず独自に施策を進めていく覚悟を意思表明したのが最初のネバーギブアップ宣言です。

「根羽村は過疎化に負けず、村民と行政が共に汗を流すことにより、誇りと希望の持てる『ふるさと根羽村』を築いていこう」と宣言しました。  
(2004年1月)

## \*ネバーギブアップ宣言2.0へのアップデート

日本が抱えている数多くの問題、これからの根羽村のこと、取り巻く現代の状況を踏まえて宣言の内容をアップデート(更新)するため、人口800人の小さな村という特性を活かして、「20年後の夢」をテーマに役場職員と20年後の根羽村の姿と一緒に想像する全村民インタビューを令和3年度からはじめました。(498名、全世帯の84.4%の方にインタビューを実施)インタビューの結果からキーワードを抽出し、「20年後の根羽村について考える会」で話し合いを進め、根羽村とともに幸せに生きていくための方向を示した未来像を「ネバーギブアップ宣言2.0」として2024年6月にまとめました。

# 基本構想1 | 20年後の理想像

## ネバーギブアップ宣言2.0

つながりがあふれる村へ。  
森とともに生き、よりしあわせな人生を歩もう。

根羽村で暮らしていくことを諦めない。

人口減少・高齢社会における、わたしたちの「ネバーギブアップ宣言」。

### 前提となるあり方

#### ひとりひとりが互いを尊重し、助け合い、「ともに生きる」関係へ。

- ・自然や人とのつながりの中に根羽村らしい豊かさを見つけ、居心地の良さを感じられる村へ。
- ・どこにいても根羽村と心がつながり、根羽村での暮らしがイメージできる情報を発信する。



### 1-根羽村で人生100年時代をより健やかに

人と社会につながりを持ち、  
互いに「心地よい関係」を築くことで心と体の健康を保っていく。

- ・人口減少が進み、人や社会とのつながりが薄れていくことが予想される。  
地域での支え合いを大事にし、安心して暮らす。
- ・お互いを知っている土地柄を活かして、つながりへの第一歩を共に踏み出し、  
人や社会とつながる機会を増やす。

## 2-つながりがあふれる根羽村

**村内外の様々なコミュニティとの交流・つながりを大切にし、  
多様なコミュニティの「つながりがあふれる」村へ。**

- ・地域社会を維持するために、ひとりひとりが地域と関わり、地域のことをともに考える。
- ・地区、世代間などの多様なコミュニティが、その機能の大切さを理解する。
- ・それぞれのコミュニティのより良い形を目指し、村内外のコミュニティとのつながりを深めていく。

## 3-知りたいとやりたいを知り合える根羽村

**互いに知り合うことで、「知りたい」と「やりたい」から、  
「分かる」と「できる」になる村に。**

- ・村に関わる「知りたい」「やりたい」人が、村内外の「情報や人、機会」に出会えるネットワークがある村へ。
- ・「情報や人、機会」に出会うことをきっかけに、横のつながりが生まれ、手を携えながら、ともに「分かる」「できる」に近づいていく。

## 4-根羽村に暮らすみんなで学ぶ

**大人も子どもも学び合うことから、  
わたしたちの「可能性」に気づき、自身と村の「誇り」につなげていく。**

- ・時代の変化が予測のできない社会でも自信をもって生きていけるよう、どうしたらより良くなるか「問い合わせ、解決する力」を育む。
- ・大人も子どもも「学び」の機会を通じて、様々な経験を重ね、学び続けることで自身と村に誇りを持つ。

## 5-挑戦と応援がかけ合わさる根羽村

**大小関わらず「やってみたい」と「応援したい」があふれ、  
「おもしろそう」と「たのしそう」が実現できる村へ。**

- ・小さな「やってみたい」からコツコツと。等身大でも始められる村に。
- ・人の「やってみたい」を知り、その人に手を差し伸べられる人、気にかけられる人など、その人なりの応援が広まる村へ。

## 6-活かし合い、イキイキと働く根羽村

**それぞれの仕事を尊重し合うことで、自身の仕事に「誇り」を持ち、「イキイキ」と働ける村へ。**

- ・稼ぎと務め、得られる対価の内容を問わず、それぞれの「働き」で多年代の人が活躍しているアクティブな村に。
- ・今後も生まれていく地域の困りごと解決に対して、立場の異なる人たちがそれぞれのできることを活かし合い、協働することで、これから新しい仕事を生み出していく。

## 基本構想2・3 | 願いを支える地域の基盤

# 地域産業方針・関係人口方針

## 2 地域産業方針：「稼ぐ力」を高め、地域の暮らしをゆたかに彩る

ネバーギブアップ宣言2.0の願いを実現するため、地域を支え高める基盤となる産業で「稼ぐ力」を高め、より豊かな村をめざす。

- ・森林を中心とした地域資源を最大限活かし、村の誇りとして人をつなぎ未来を育む産業を形作る。
- ・暮らしと安全を守り、いつまでもこの村で暮らし続けることが出来るように、村内のサービスを行政やビジネスの力を協働して維持していく。



## 3 関係人口方針：多様な「つながり」から、地域を共に創る担い手・パートナーへ

根羽村に興味を持ち、多様なつながりを持つ人々を「関係人口」と位置付け、関わる全ての人とともに新たな視点や活力を増幅させていくことをめざす。

- ・多様な関わりの中で地域資源の価値が見直され、魅力が発見される。
- ・積極的な関わりにより地域産業の発展や課題解決を促進していくことをめざす。
- ・根羽村のコミュニティに溶け込むことにより、持続可能かつ豊かな暮らしにつながる価値観への共感・発見をもたらすような交流をめざす。



## **戦略・指針**

戦略・指針の全体像

3つの村づくり戦略と指針

- 1 住み続けたい村づくり
- 2 学びの村づくり
- 3 人と経済が循環する村づくり

# 戦略・指針の全体像

ネバーギブアップ宣言2.0および地域産業方針、関係人口方針を基本に、  
地域社会のあり方を考えた計画をここでは「戦略・指針」と呼びます。

選択と集中により一つひとつの計画の実現を目指しながら、  
村内のサービス維持を目的とした村づくりを、  
ソーシャルビジネスの観点も踏まえて進めていきます。

## 相互に関わり合う戦略・指針

戦略や指針は、それぞれが独立しているわけではありません。  
「健康であることが基盤となり、地域での学びや働きに結びつく」など、相互に関係しています。  
一つひとつの取り組みが村全体を盛り上げていくことにつながる、そんな未来を描いています。

## 戦略・指針の共通点

### つながり、交流

人と社会、人と自然、地域と地域など、多様な関係・つながりを大事にし、  
村内外の多様なコミュニティとの交流を図ります。

### 挑戦

「やってみたい」という挑戦に自ら踏み出すとともに、  
その一歩を応援する人や活動を盛り上げます。

### 共有、発信

より多くの方法でより多くの村内外の「情報や人、機会」に出会える  
ネットワークづくりを推進します。

### インフラ、DX

暮らしと安全を守り、産業を振興するための基盤となるインフラ整備や  
ハード・ソフトを問わない効率化、生産性向上を図るためにDXを推進します。

# 1 住み続けたい村づくり



## 戦略 01 健康で楽しく、ともに生きる

身近なところで医療機関を受診できるよう村の医療体制を維持するとともに、医療だけでなく若年層からの介護予防の充実を図り、すべての村民が安心して住み慣れた地域で楽しく生活できる活動や仕組みづくりを推進します。

また、仲間づくりの場として、世代間交流をすることで若者は伝統を学び、指導者は伝統を伝えることのできる活動の充実を図り、文化継承活動や健康増進活動の推進をすることで継続した活動が出来るよう支援していきます。

村内外の介護サービス事業者や障害福祉サービス事業者等との連携を強化し、国・県等からの支援を受けつつ、要支援者、要介護者、障がい者、その家族が安心して暮らせる村づくりを図ります。

- ・医療(村内と村外連携、歯科診療、検診の充実)
- ・福祉(活動の場の維持・運営補助と人材確保)
- ・村で最後まで元気でいられる介護の前の活動
- ・支え合い、得意分野の先生、伝えたいと聞きたい
- ・趣味、文化、スポーツ(やりたい場・活動場所へのアクセス、活動のバトン渡し)
- ・村内有志、任意グループの活動支援
- ・食(伝統を残す、伝える、体質改善)

## 戦略 02 出産・子育てがしやすい仕組みづくり

子どもたちの多様な個性や能力を大切にしながら、生涯にわたって多くの人と関わりながら学ぶことのできる場づくりを推進します。子どもを親だけで育てるのではなく、地域全体が関わって子どもの成長を支え見守るしくみをつくります。

児童手当・出生祝金等による子育て世代の家計への負担軽減を図るとともに、0歳から18歳以下の児童、ひとり親世帯等に対し福祉医療制度により、早期適切な受診と医療費の負担軽減を図り、安心して出産し、子どもを育てられる村をめざします。



- ・福祉医療(0歳から18歳以下の児童、ひとり親世帯等)
- ・子育て(遊べる空間の再考・交通安全等子どもの安全確保・部活と地域活動・進学に伴う負担軽減)
- ・教育(学び・愛着のある場の創造)

根羽村らしい豊かさ、居心地の良さを暮らしの中で感じるために村民の健康と将来の暮らしへの安心感を守り、育てることをめざします。魅力的な村の自然・文化とともに、人と人との支え合う関係性を将来に渡って紡ぎ、つなぐことが、住み続けたい村づくりにつながると考えます。

## 戦略03 人口減少への対応と交流

根羽村を知る機会、関わり続ける機会を積極的に設けることで関係人口を増やし、通いたい、関わりたい、住みたい人が村と継続的な関係性を築けるよう、長期的な視野を持って活動を推進します。さらに移住した人や二地域居住をする人など、村で時を過ごすあらゆる人が村民とともに暮らす姿を目指していきます。



- ・交流(村内の交流、村外での交流、関係人口のあり方、イベント準備で一体感を醸成)
- ・住宅(移住・定住・中長期滞在・お試し移住等の推進、土地利活用)
- ・空き家の利活用見込を踏まえた住宅の確保
- ・移住者へ地域参加の場や、区のあり方などを伝える
- ・村に住む人が、村外から訪れる人との出会いによって村の魅力に気づく

## 戦略04 安心・安全で、心豊かな生活

安心・安全な生活を送る基盤の充実を図るために、道路・上下水道等のインフラ整備や、交通サービス等のソフトインフラの整備および防災対策を、DX活用等も検討して計画的に進めます。

少数でも適正な消防団活動が行えるよう、消防団員の確保と装備の充実に努めるとともに、防災訓練等の実施を継続的に行うことで地域内での自助・共助の促進をめざします。

また、多少の不便さはあっても心豊かに住み続けられるよう、村内巡回バス等移動手段の確保や空き家の利活用の推進とともに、地域内外の多様なコミュニティとのつながりを維持・拡充していきます。

- |                 |                                       |
|-----------------|---------------------------------------|
| ・インフラの維持        | ・東西南北を縦断する国道・県道の維持改良における連携と村道の維持・災害対策 |
| ・災害に強い村         | ・公共施設等の利活用、統廃合を含む最適化                  |
| ・消防体制・防災対策の充実   | ・公共交通・移動手段の確保                         |
| ・防犯・見守りによる安心・安全 | ・空き家対策                                |
| ・景観整備           | ・情報発信・情報通信網の利活用                       |
| ・有効な土地利用        | ・ふるさと納税等自主財源の確保(財政健全化)                |

## 2 学びの村づくり



### 戦略 O1 新しい学びの創造

時代や社会の変化にしなやかに対応する「根基」を育てるためには、正解のない問い合わせ異なる他者と協力・協働の取り組みを通して「納得解」を導き出す力の育成が必要です。今までの画一的・効率重視の集団的な学習スタイルを変える必要があります。受け身の学習から自ら主体的に目標を設定し、その子なりの方法で学習調整を図り、仲間と協働して解決を図る「新たな学びの創造」を進めます。



- ・学びの場、教育の場の充実  
(保育所から英語教室・運動教室などの基礎の学び)
- ・心躍る学びの場  
(やまほいく、公営塾、放課後こども教室)
- ・保小中が連携した  
「個に寄り添い自己実現を図る学び」の充実

### 戦略 O2 大人も学び手

「学びは子どもだけがするものではなく、子どもとともに大人も学ぶ」という観点や、「日常のなかから学びが生まれる」という感覚を大事にしていきます。根羽村には、多くの村民が顔なじみで人との距離感が近く、地域で子どもを育てる風土があります。大人の学びと子どもの育ちをつなげることを目指し、ともに学ぶ村づくりを進めます。



- ・村民が学べるしくみ(来訪者へ伝えていることを村民にも)
- ・大人も子どもも学ぶことを楽しむ
- ・主体的な公民館活動の促進
- ・相互に学び合う環境の創出  
(「得意」のシェアを多様な世代、地域全体に)

山や森に抱かれた根羽村の暮らしには、豊かな自然とのかかわりや自然を糧にたくましく暮らす人々の「営み（工夫や努力）」や、これから変化著しい社会を生き抜いていくための「学び（知恵や英知）」があります。私たちは、「学びの村づくり」を柱に据え、子どもも大人も混ざり合う学び合いの実践を続けることで「根基（こんき）（教育大綱よりp.35）」が育つと考えます。

## 戦略 03 学びからの期待

村に人が来た際に感じる都市部と村との相対的な評価を知った時や、村外に出た時、地域の中で顔の見える関係に基づいた暮らしがあることなど、「都市部の暮らしで忘れてしまったこと＝根羽の暮らしのなかで当たり前のこと」と気づくことができます。

私たち自身が日常のなかの豊かさに目を向けたり、足元にある価値に気づいたり、異なる他者を受け入れてともに生きる土壤を耕すことが大切です。人生設計の上での学びの重要性を認識し、自分たちの手で自分たちの歴史を創る学びの村づくりの一歩を踏み出しましょう。



- ・自然の中での学びの推進
- ・伝統・文化の積極的継承
- ・地域内交流の活性化と継続
- ・社会教育施設や資料館のあり方検討



### 3 人と経済が循環する村づくり



#### 戦略 O1 森林を“宝”と思える未来の実現

村の面積の94%を占める森林を活かし、林業はもちろん多種多様な事業主体との連携や新たな価値が創出されることで根羽の森林がいまだかつてない森としてあらゆる先進的挑戦が行われている未来を描きます。

矢作川の源流である根羽村の持つ森林が、流域の暮らしや企業、社会を豊かにする価値あるものであり続けるよう、持続可能な新しい森林経営を形にしていきます。



- ・木“財”となる森林資源の活用(木の糸、薪、建材など)
- ・木材以外の利用価値創出(環境価値や環境教育の場)
- ・林業効率化のためのスマート林業
- ・里山林、生産林、環境林のゾーニング
- ・環境保全×森林の附加価値創出
- ・森林を活用した場づくり
- ・木育に関する取り組みの推進

#### 戦略 O2 農林漁業の推進と鳥獣被害等防除策

平坦地が少なく、農業経営が難しいとされてきた根羽村で、従来からの寒暖差を活かしたトウモロコシや野菜のほか、トマトのハウス栽培という新たな視点で事業が始まったことにより、地域の新ブランドとなり雇用も創出されています。

こうした事例にも学びながら、遊休農地の利活用や荒廃地化する農地の抑制と合わせて取り組みを進め、農林漁業を行う場、一次産業のある風景を守っていきます。また、鳥獣の生息エリアとの近接や個体数の増加等による農林業における獣害問題が生じているため、適切な防除・個体数調整及び担い手の確保による被害の防止・軽減を推進します。



- ・根羽ブランド、地域ブランドによる誇りの創出
- ・遊休農地の利活用、荒廃地の抑制、農地集約化による基盤整備(組織農業、地理特性を踏まえた進め方)
- ・機械更新の補助(機械の故障を離農につなげない体制)
- ・柵やフェンスによる防護対策への補助
- ・有害鳥獣捕獲による個体数調整
- ・ゾーニングに基づく人里を生息域とする獣の抑制
- ・狩猟免許の取得補助等による狩猟者の確保と獵友会による活動の維持

人や物、情報やお金の流れを地域内外で巡らせ、「上手に稼ぐ」村の姿をめざします。根羽村の森や環境と、社会経済活動が調和するポイントを常に意識しながら人やモノの流れを生み出し続けることで、住む人、関係する人、風景までもがイキイキと躍動する村づくりを促進します。

## 戦略03 滞在型事業推進や広域連携

いまある村の飲食店や商店などのサービス産業を維持していくため、通過点ではなく滞在型事業受け入れの推進による「しごと」の創出や場の維持・利用促進を図り、村全体での所得の増加をめざします。また、近隣市町村(県境域・西部三ヶ村等)と協力体制を結び、観光や産業流通、事業者交流など広域的な発展をめざします。



- ・村の営みに紐づくサービス継続(飲食店・商店などの支援)
- ・観光や産業のあり方を検討するための要素と  
データ収集の実施  
(宿泊施設の確保・自然環境を活かしたもの・  
滞在型等の拠点・村にお金が落ちる仕組みづくり)

## 戦略04 資源を活かしたゼロカーボン推進

豊かな森林資源を活かした木質バイオマスボイラの導入など、これまでも温室効果ガス削減の取り組みを推進してきました。今後、さらに削減を行うには施設の省エネルギー化や運用改善、再生可能エネルギーの導入、電力のグリーン購入が必要不可欠となります。村のエネルギー・マネジメントに戦略的に取り組むことで CO<sub>2</sub>排出量を削減するとともに、エネルギー支出を削減して、地域内の資金循環を促します。また、地域資源を活用したエネルギー事業を段階的に進めることで、将来的に村内のエネルギー消費をすべて村内で賄い、村のエネルギー自立の達成をめざします。



- ・地域×環境価値、豊かな生態系
- ・CO<sub>2</sub>吸收量、排出量の把握
- ・木質バイオマスの普及(薪ボイラの導入補助等)
- ・電力のグリーン購入検討
- ・地域資源の利活用による地域内の経済循環

### 3 人と経済が循環する村づくり



#### 戦略 05 担い手と後継者の確保

地域にある多様な資源を活用した取り組みを推進し、地域内で新たな雇用の場を生み出すことで、より健全で持続可能な経済循環の形成をめざします。さらに、現在村にある仕事を守り、その価値や魅力を改めて見つめ直すことで、根羽ではたらくという選択肢が自然に思い浮かぶような環境を整えていきます。こうした取り組みを通じて、村で営まれてきた暮らしの風景や文化、人々のつながりを将来にわたって守り育て次の世代へと引き継いでいきます。



- ・創業者支援(初期投資への補助、土地の確保支援)
- ・働き口の選択肢を確保、必要な人数の雇用者、  
人材バンク的な人と人とのマッチング
- ・高齢化対策、後継者を必要とする自営業マッチング

#### 戦略 06 空き家利活用

人口減少に伴い増加する空き家の問題に対して、単なる活用の推進だけでなく、関係人口の創出や二地域居住の受け入れ態勢の強化にもつながるよう、総合的な取り組みを進めていきます。地域の環境や景観に十分配慮しながら、空き家を地域資源として生かすための利活用を促進するとともに、所有者一人ひとりが空き家の管理や活用に前向きに関わっていけるよう、意識改革にも取り組みます。こうした施策を通じて、空き家を地域の新たな価値として再生し、地域コミュニティの活性化や住環境の向上へとつなげていきます。



- ・交流拠点施設「シラネバ」による情報発信と  
空き家相談窓口としての機能強化
- ・空き家利用実績の増大

人や物、情報やお金の流れを地域内外で巡らせ、「上手に稼ぐ」村の姿をめざします。根羽村の森や環境と、社会経済活動が調和するポイントを常に意識しながら人やモノの流れを生み出し続けることで、住む人、関係する人、風景までもがイキイキと躍動する村づくりを促進します。

## 戦略07 環境保全(森林、河川、ごみ、住宅)

生活インフラが村の暮らしに合った形で整い、住み続けられる村をめざします。家庭では環境・社会に配慮したエシカル消費(人や社会、地球環境、地域に配慮した消費)を進めることでごみの減量と分別による適正処理を進めるとともに、適切な森林や河川の管理による水・空気の保全にも繋げていきます。茶臼山で発見された日本の固有種「ネバタゴガエル」に代表される矢作川の生命環境を背景とした生物多様性の保全を推進します。根羽村の豊かな自然環境が魅力となり、下流域都市部や企業とのつながりとなっています。村全体で環境に配慮した取り組みを進めることで、対外的な連携を強めることにもつなげていきます。



- ・上下水道施設等の適切な維持管理、人口、集落規模にあった施設更新
- ・河川の維持管理、水質の保全、見回りへの補助
- ・生態系の豊かさの確保
- ・4Rの推進(ごみを減らす、くり返し使う、再生して利用する、代わりのモノに換えていく)

## 戦略08 つながりの豊かさを活かした村づくり

愛知県へ注ぐ矢作川の源流である根羽村では、流域内の交流が盛んに行われており、生活圏のつながりもあり近隣市町村等との連携が行われています。目まぐるしく変化する社会環境に対して柔軟に対応するため、この連携の輪を維持・拡大することをめざします。

そして、村民や村内外の幅広い年代・分野の声を聞き、伝える機会を増やしながら、将来にわたり人が住み続けられる地域づくりに向けた取り組みを進めます。

- ・矢作川流域の源流に位置する根羽村から矢作川に關係する自治体や企業との森づくりや景観整備など、多種多様な共創、流域連携を推進
- ・長野県、南信州地域の市町村との交流・連携により策定した政策の実施や経済活動の協働
- ・県境に位置する町村で構成する長野・愛知県境域開発協議会などをはじめとした集客や事業実施に向けた連携
- ・企業、大学、市町村等との多様な関わり、つながりづくりの維持・拡大を推進

## **村の挑戦・プロジェクト**

小さな村が単独で動くための力には限りがありますが、

小さな村だからこそ素早く、大きな動きをもたらすこともできます。

今後5年間、根羽村では見据える希望に向かって、大きな力を持って動かしたいプロジェクトに集中します。

大きく動かしたプロジェクトは効率化と絞り込みを行い、次のプロジェクトを動かせる力にしていく——。

そんな「挑戦のサイクル」を回しながら、村のより良い未来を描いていきます。



## 〇1 矢作川流域の森づくりから、 森林資源の新たな可能性を見出す



生活・文化・経済など、人間社会の多様な場に恵みをもたらしてきた、川の流れ。

源流や上流の環境が美しいことは、人の営みそのものを支えるほどの大きな価値があります。

この川と密接な関係を持つ森の大切さにも触れ、知り、未来を見据えた森づくりを行うことを通して、「清らかな水源」と「豊かな水」を守り、育みます。

さらに、川の「流域」という広域な視点でそれぞれが持つ価値へ目を向けることで、結び付き、交換する、「つくる」と「つかう」の循環を生み出す「流域経済圏」を形づくっていきます。上流で育まれた豊かな森の恵みが、下流へと流れ込むように。

川から海に注いだ水が雨となり、また山へと還るように。

経済的な恩恵もまた、流域全体に行き渡る仕組みを構築していきます。



## 02 学びの村(教育・中間支援・社会教育)

根羽村では「学びの村づくり」をこれからこの村を形作る柱のひとつに据えました。

村民、地域企業、行政など、村全体が一体となり、よりよい根羽村のために

「子どもの学びをまんなか」に、ともに学び合い協働していくことをめざします。

ここで大切にしたい「子どもの学び」とは、

自分の「好き」を見つけ、失敗や挫折を恐れず学びたいことに挑戦すること。

そして、協力したり関わり合ったりすることで、互いを認め合うこと。

それぞれの探究心と支え合いを柱とした新しい学びを創造し、根羽発で「中山間地域の学び」のモデルをめざします。

これと同様に、根羽村では生涯を通じた「学び」も大切にします。

日常の暮らしのなかにも学びがあり、学び続けていくことができます。

子どもの学び（育ち）を支えることで、自らも学ぶことができます。

協力したり、関わったりすることを通じ、ありのままの存在として互いを尊重し認め合いながら、根羽村に暮らすあまねくすべての人たちが、学びを通して関係を深めていくことが目標です。



## 03 空き家+関係人口づくり



空き家の利活用にあたっては、「根羽ならではの面白いことが実現できるのではないか」という発想をもとに、新しい暮らし方や働き方を試せる“実験的な場”を創り出していくます。こうした場を通じて、関係人口として関わる人々が空き家を舞台にした活動やプロジェクトに参加しやすくなり、村とのつながりを深めるきっかけにもなります。

また、空き家を管理の負担になる存在ではなく、「夢や想いを形にするための貴重な地域資源」として捉える価値観を広く共有していきます。空き家が多様な人々の交流を生み、地域に新たな活動や賑わいをもたらす未来を描きながら、持続的な利活用の可能性を追求していきます。



## 04 村内で回るサイクル： 地域内循環による持続可能な村づくり



村民一人ひとりが安心して暮らし続けられる生活基盤を維持するためには、村民全員がどのような暮らしの仕組みを望んでいくかを考え、その時々に合ったものに変えたり、残したり、戻したりしていく必要があります。

コロナ禍以前には行われていた交流機会の振り返りを出発点の一つとし、①村の農作物や森林、水や文化など、豊かな資源や必要なインフラの維持、②美しいと感じる風景を守り作るための、村内での食料・エネルギーなどの循環を強化することで、持続可能な地域社会をめざします。



## 05 ゼロカーボン・公共インフラ、 エネルギーの自給自足



林業立村を標ぼうしてきた根羽村において、豊富に存在する森林資源を最大限に活用することは欠かすことのできない命題です。2050年のカーボンニュートラルを見据えた、再生可能エネルギーの利用、エネルギー消費量の削減及び適切な森林管理による水・空気の保全を進めます。また、薪ボイラーや木質バイオマスを活用しながら、環境に配慮したエネルギーの自給自足システムの構築をめざします。

# みんなで取り組む村づくり

## (役場の役割と「協働の村づくり」)



根羽村の「ありたい姿」を考えた時、その実現のため役場の担う役割はどのようなものでしょうか。日々の業務が多様化・複雑化するなか、限られた職員だけで全ての課題に適切に応じきれない状況など、役場職員が担う・担える役割も変化しています。

一方、村民の力だけで担っている事柄もあれば、役場と協力することでより良く実現できることもあります。

では、役場と村民が一緒に動くには、どうしたらよいでしょうか。

800人という人口規模だからこそ、村民一人ひとりと対話し、声を聞くチャンスがあります。つながりを大切に、住民、企業や関係する皆さんとの対話・協働による村づくりをともに考えていく、そんな村の風景をともにつくる役場をめざします。

### ○地域力をともに高める役場となる

- ・村の中に息づく「知りたい」「やりたい」を持ち寄り、地域のつながりから「分かる」「できる」につなげる役場へ
- ・幅広い活動に優先順位をつけ、スピード感を持って、「おもしろそう」と「たのしそう」を実現する役場へ
- ・生活と仕事がつながる職場。村が元気になっていくことをやりがいにできる。

### ○業務の可能性・潜在力を踏まえた「めざす職員像」

- ・必要な行政機能を維持するために求められる力を持つ  
個別の守備範囲で対応していることについて、組織内の経験を共有する。
- ・地域との共働力・対話力  
役場の外へ出て、意図して出会い、地域のなかで共働力・対話力を磨いていく。
- ・事業の統合・組み替えにより最大限のポテンシャルを発揮する  
課題解決のために必要なリソースを割り振り、積み上げられる。

## 根羽村のこと

—地政・人口・暮らし・産業



# 矢作川の源流で、「森とともに生きる村」



長野県の最南端に位置し、愛知県と岐阜県の県境に位置する根羽村。

1,000m級の山々に囲まれ、東西11km、南北13km、総面積は89.97km<sup>2</sup>。うち94%が森林で、古くからスギ・ヒノキを中心とした植林が行われてきた歴史があり、人工林率は73%に達しています。

茶臼山を源流とする一級河川「矢作川（やはぎがわ）」は延長118kmを経て三河湾へと注ぎ、愛知県三河地方の重要な水源となっている。明治用水土地改良区が取得した水源涵養林や愛知県安城市と環境青林協定を結んでいる「矢作川水源の森」、その他一般企業との連携など、流域全体の多様な人々と手を結びながら、源流地域の環境保全に努めています。

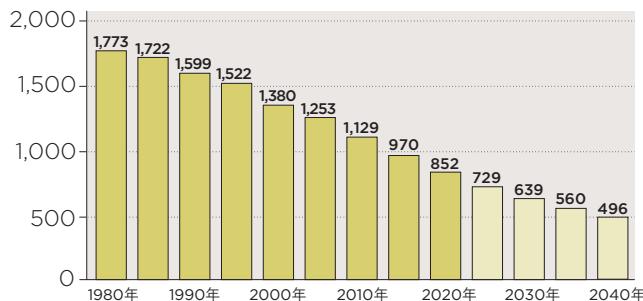
標高が540mから1,415m（茶臼山）と、地域により大きな差があると同時に平坦地が少なく、全国的に平均気温の上昇が観測された2024年には根羽村では最高気温が35.1度、最低気温が-8.0度と寒暖の差が大きい当地の気象条件を維持し、また年間降水量は2,258mlと多雨地帯に属する気候です。このような環境で植栽され育まれた木の成長は著しく、美しい林相を呈しています。

## 3県にまたがる生活圏と交流のなかで

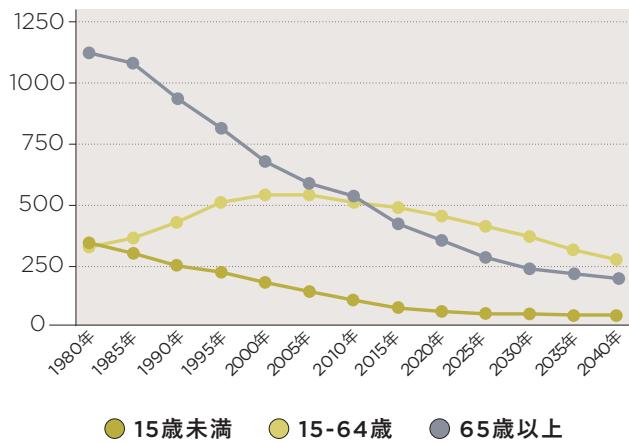
古代・中世において、根羽村は三河の国に属していましたが、1571年に武田信玄の指示により信濃国に編入されました。このような経過もあり、言葉や風土・風習、食文化等に三河文化の特徴が残っています。三河湾でつくられた塩を山間部へ運ぶための「中馬街道」が現在の国道153号となり、地域の骨格を形成。村内を見ると集落間には距離があるものの、広く見ると長野、愛知、岐阜の県境に位置することから生活圏や交流も3県に渡っています。

# [根羽村・現在のようす]

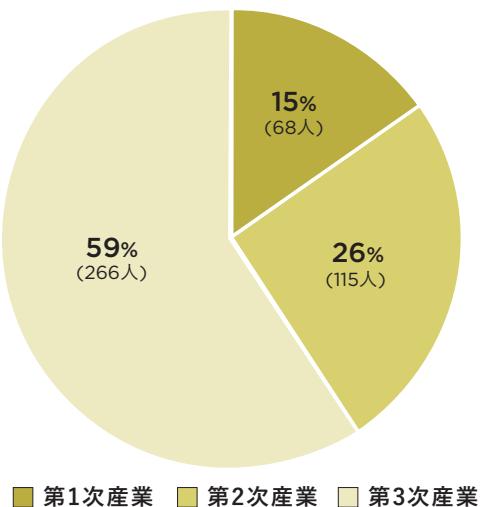
根羽村人口の移り変わりと推計(人)



年齢区分別的人口推移と推計(人)



2020年の産業別従事者割合



## 人口の現在

2025年1月現在、根羽村の人口は806人(住民基本台帳より)。国立社会保障・人口問題研究所の試算では、根羽村では今後も人口減少が続き、2040年には総人口496人にまで減少すると推計されている。後継者・担い手不足が生じ、村内での経済活動や生活基盤の維持、サービスの提供等に大きな影響を及ぼすことが懸念されている。

## 暮らしの現在

65歳以上人口割合が51.4%(2025年1月1日現在)と長野県内で3番目に糖尿病や高血圧の有所見率が高い村ではあるものの、元気なお年寄りが多く、村の唯一の診療所が「村の医療の拠点・かかりつけ医」となっている。公共交通の運行量は少なく集落間の距離もあるが、道路網が整備されているため車での移動が多くなっている。お互いの顔が見えるコミュニティで様々な活動が行われており、親切でやさしく責任感の強い村民性や、移住の増加による価値観の多様化により、多様で豊かな暮らしを実現している村民が多い。生活インフラの老朽化に伴う修繕や更新の必要性が生じている。また、村内の情報を区長便や回覧板、無線放送、ケーブルテレビ、HP、Youtube等で発信している。

## 産業の現在

根羽村における従来の基幹産業は農業・林業である。とくに林業は恵まれた気象条件や地形的条件によって重要な位置を占めてきた。1900年当初から1982年にかけて分収林・貸付山制度による契約で当時の全世帯が5.5haの森林を所有し、近年は持続可能な森林経営を進めるため森林認証を取得。「根羽スギ」、「根羽ヒノキ」での林業の六次産業化を図る「トータル林業」の取組、製材工場のJAS認定の取得など、積極的に林業に取り組んでいる。

村全体では農林業からサービス業等への転換により2020年現在、第一次産業に占める人口の割合は15%、第二次産業では26%、第三次産業は59%となっている。

出典:2020年まで「国勢調査」(総務省統計局)、2025年以降「日本の将来推計人口(令和5年統計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

コラム

## 根羽村の「兆し」

すでにはじまっている、根羽村の新しい村への躍動。  
事例の一部をご紹介します

### 関係人口の増加と 多様性の創出

近年、経験とスキルを持つ人材との協働による  
関係人口づくり事業や空き家利活用等、  
幅広い施策を行うことで、  
2020年から2022年には社会増、  
とりわけ2021年1月には  
前年同月比10人の  
人口増となりました。

### 発信する情報の 多様化と内容の充実

情報ツールの多様化により紙面等による  
情報発信だけでなく、  
SNS等による情報発信の充実、  
CM大賞受賞など、  
対外的なPRの場が増加しています。  
結果、村のよい評判を  
聞く頻度が高まっています。



### 学校教育・社会教育の充実

2020年より、村の小中学校は小中一貫の義務教育学校「根羽学園」となり、  
9年間の学びを通して自ら考え判断し行動できる「自立」を目標とした教育がスタートしました。  
それに先んじて2019年からは愛知県安城市からの親子留学受け入れを開始。  
2022年には根羽村公営塾「げん」が開塾し、より根羽村らしい教育の実現に向けて取り組んでいます。  
また、公民館活動の再構築による社会教育の充実と、これに併せた学びの村づくりも始まっています。

### 新たな林業の取組、森林を活用した企業連携

薪、ウッドチップ等の未利用材を使った木質バイオマスの活用、木材利用、付加価値創造の先駆的事例となる  
「木の布」(木の糸を用いた布づくり)プロジェクト、木の糸事業の展開、森林や流域を通した多くの企業連携などにより、  
新たな木材価値の創造が始まっています。

### 遊休農地の増加

遊休農地の増加により、森と家との境界が近くなったことで獣害が増加していますが、  
電気柵防除の実施や猟友会による有害鳥獣駆除を行っています。

### 青年新規就農者等による新たな農業への挑戦

高品質トマト栽培が2017年から新たに始まり、生産の効率化を図るとともに雇用を創出しています。  
研修生を受け入れ、新規就農者の独立につなげるなど、中山間地域の農業を盛り上げています。

### 役場のあり方の見直し

地域課題の多様化・複雑化により村民への対応が困難になる中、必要な役割・機能の変化に応じた体制づくりを行うため、  
役場においても人材確保や各職員のスキルアップを図っています。また、「村づくり集会」の開催など、行政だけ、  
住民だけでやれることの限界を踏まえて、それぞれの力や知恵を出し合って考える場や機会が増加しています。

# 根羽村教育大綱

## 根基

根羽村には「根基(やっぱり根だ。基礎がしっかりしていかなければ、駄目なことを大杉は教えてくれる)」という藤本三郎先生が遺された言葉があります。今の時代に求められる「根」とはなんでしょうか。

根羽村総合計画では、計画全体のビジョンとして「森とともに生きる」と掲げています。わたしたちは根羽の森から豊かな恵みをいただいている一方、本来は統制できない自然の力がはたらく「森のなかでの暮らし」には、合理性や効率化ばかりの都市生活ではない、これから変化著しい社会を生き抜いていくための「学び」があります。

そしてなにより、子どもも大人も混ざり合い、自ら考え、人から学ぶ「学び合い」から、実践していく。それを繰り返し続けることから、根羽らしい「根」が育っていくと考えています。

またその計画において「学びの村づくり」をこれからの村を形作る柱のひとつに据えました。  
村民、地域企業、行政など、村全体が一体となり、よりよい根羽村のために、保育所、義務教育学校の「子どもの学びをまんなか」に、学び合い協働していくことを目指します。

この大綱を通じて対話を重ね、村に暮らす人も村に関わる人たちも、  
子どもと大人も、根羽村に関わるあまねくすべての人たちが、  
森とともに生きるこの根羽村で、しあわせに生きていくための礎となることを願います。

### <ここで言う「学び」とは>

1985年にユネスコによる「学習権宣言」において、学習とは「人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえていくものである」とあります。  
より良く自分らしく生き、自分と社会のウェルビーイングのために、ここ根羽村で、里山の暮らし、根羽村にある日常の中から学び続ける姿を目指しています。

### 子どもの学び

- ・自分の好きを見つけ、学びたいことに失敗や挫折を恐れず挑戦する。
- ・協力したり、関わり合ったりすることでお互いを認め合う。
- ・村民全員がPTA。地域の子どもは地域で育てる。
- ・新しい学びを創造し、根羽発で「中山間地域の学び」のモデルに。

### 大人の学び

- ・日常の暮らしのなかに学びがある。学び続けていく。
- ・子どもの学び(育ち)を支えることから自らも学ぶ、子どもから学ぶ。
- ・協力したり、関わり合ったりすることを通じ、ありのままの存在として尊重し互いを認め合う。
- ・村に暮らすあまねくすべての人たちが、学びを通じて関係を深めていく。

### 学びの村づくりへ

- ・人々が主体的に学び、社会を治めていくことから村を形作っていく。
- ・村の日常と学校をつなぐ、村の中で学びを支える仕組みづくり。
- ・日常生活の中にゆたかな学びを見つけていく。
- ・ともに学び、ともに創ることから、村づくりへつなげる。

## 村長挨拶

根羽村に住む人、地域にある様々な資源、  
多様な皆さんとの交流関係の深さなど、  
その全てが根羽村の大切な宝であり魅力です。



そして村民の皆さんや関係する皆さん、  
この根羽村で幸せに、楽しく暮らし続けていけることがとっても大切なことです。

この総合計画は、村の20年後に向けて描く夢や、  
ありたい姿の実現に向けた村づくりの道しるべとなるべく策定したものです。  
村づくりは、村民の皆さんとの力と、そこに関係してくれる多くの皆さんの協働した取り組みが重要です。

「住み続けたい村づくり」、「学びの村づくり」、「人と経済が循環する村づくり」の  
3つの村づくりの戦略と指針が村民の皆さん一人ひとりにとって、  
これから的生活や村のあり方を考える道しるべとなることを期待しています。

いろいろなことに挑戦し取り組むことが、地域で「誇り」と「自信」を持ってイキイキと生活することにつながり、  
そして次世代へ持続可能な根羽村を引き継いでいくことが可能となると思います。  
皆さんで「ともに考え」、「ともに実践する村づくり」を進めていきましょう。

2025年11月 根羽村長

大久保 勲一



# 策定の経緯

本計画は、2021年度から2024年度の4年間をかけて策定されました。

平成の大合併と「ネバーギブアップ宣言」

効率的かつ安定的な行政運営を目的とした人口規模の大きな自治体を作るため、

3200の自治体が1700に合併する中、根羽村は合併しないことを宣言しました。

「村民と行政が一致団結して豊かな森林と暮らしを守るべく奮闘してきました。

『豊かな森林』と『きれいな水』という村の財産、新しい人や物を受け入れるオープンな

マインド、本当の豊かさを持つ根羽村で、誇りと希望の持てる

『ふるさと根羽村』を築いていくことを宣言します。(一部抜粋)」

2021年12月

## 村民インタビュー開始

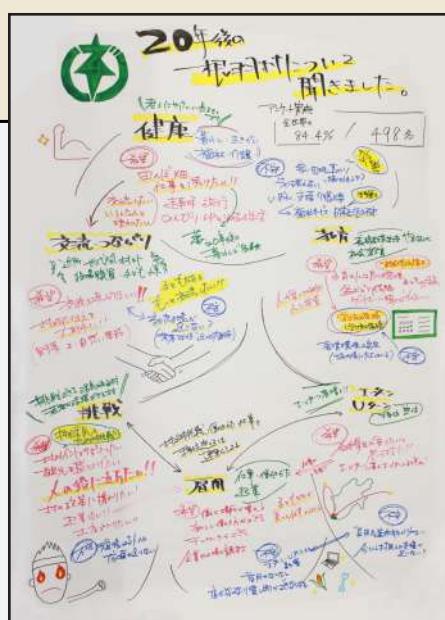
01

「新しいネバーギブアップ宣言を村のみなさんとともに。」  
村役場の職員がお一人お一人のところへ伺い、「あなたの夢」、「20年後の村の姿・あなたの暮らし」などについてお聞きし、20年後の根羽村の姿を一緒に想像しました。

【498名(全世帯の84.4%)】の方々からお話を伺うことができました。インターイビューでは、根羽村の未来に対する皆さんの「願い・期待」と「不安」をお聞きしました。

インタビュー結果を集計・分析し、役場職員による検討会の結果、6つのキーワードが出てきました。

健康/挑戦/交流・つながり/雇用/教育/Iターン・Uターン



2023

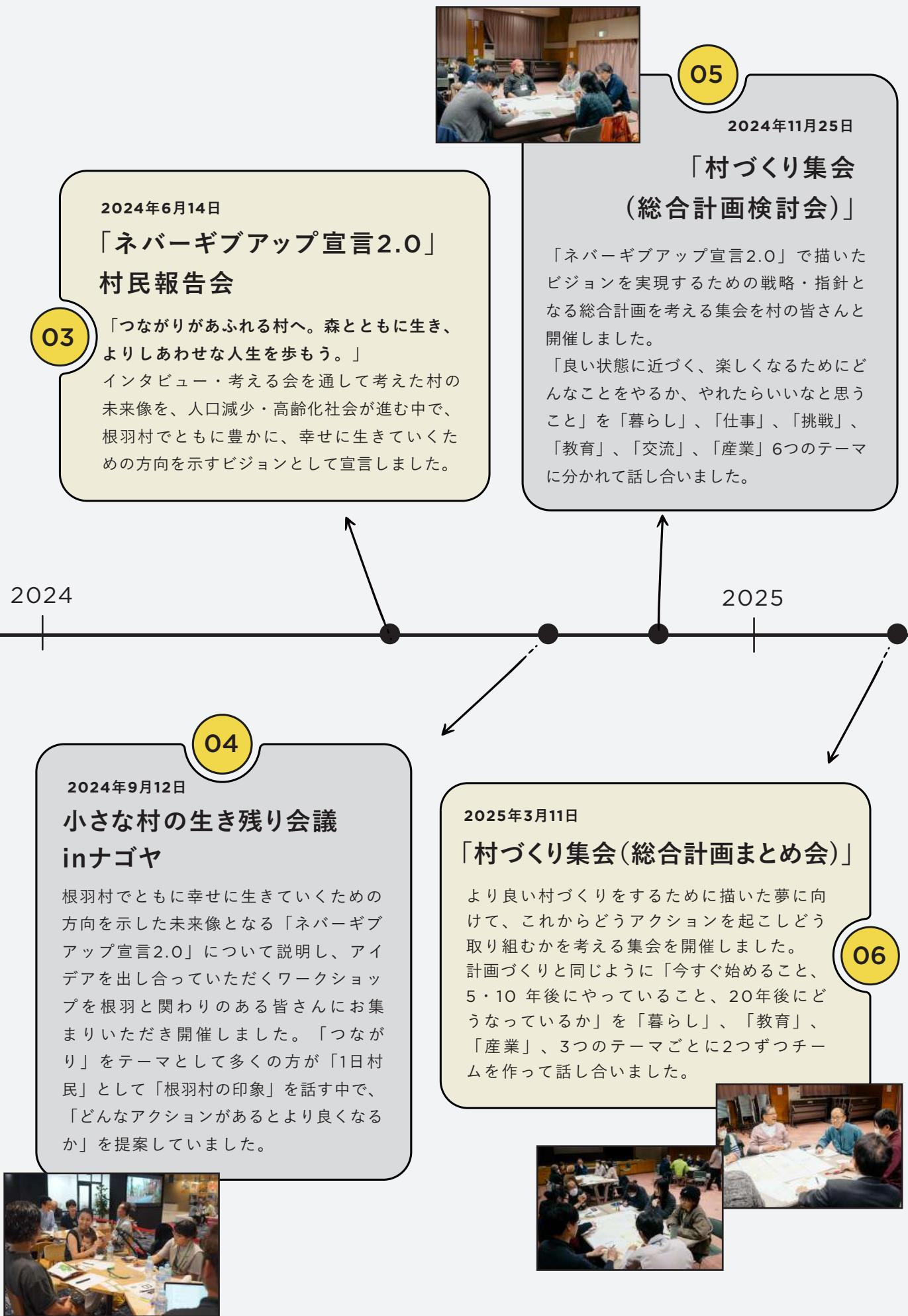
02

2023年10月30日・11月7日

## 「20年後の根羽村について 考える会」

6つのキーワードをテーマに村の皆さんと考える会を開催しました。1日目は「それぞれが思っていることをお互いに知る、現状を知る」を中心に行いました。2日目は「どんな動きがあると良い状態に近づけるのか、楽しいか、何ができるか」を話し合いました。





# それぞれの声・アイデア

小さい村だからこそ顔の見える関係があり、一人ひとりが起こす行動は村にとってとても大きなものです。

アンケートの選択肢では探りきれないような、普段はなかなか話さない「夢」や「思い」について、村の皆さんからリアルな声を聞き、皆で考えることで、より深く、より広い視点でより良い村の実現に繋げていけると考えています。

ここでは、インタビューやワークショップでお聞きした声をお届けします。

## 【住み続けたい村づくり】

### ○健康で楽しくともに生きる

- ・その時できることをそれぞれが頑張って取り組んでほしい。
- ・結局は、面白いもつまらないも全部自分の価値観やものの見方次第、面白いことを待ってても来ないし、批判ばっかで何もしないことは論外。それを踏まえて、その人のおもしろいが見つかる、チャレンジできる場所になっていると面白いと思う。
- ・健康や食を通じて村民同士が、つながることができる村になってほしい。
- ・人が交流することで高齢者の楽しみになり、生きがいや、ボケ防止になる。
- ・お年寄りが幸せで居られる村・・・その為に活躍したい。
- ・チームワークを大切にしてほしい、役場でもチームワークができなければ住民の福祉の為に適切に働くことはできないと思う。
- ・大人に対して思うこと「今の若い衆は悪い」など言ってはいけないと思う。逆に息子とか若い者に対して「頼りにしてよ、助けてね」と若い者に委ねるような姿勢でいなきゃと思う。
- ・健康維持。村内に医師がいるといい。介護が必要な時に介護員がいるといい。
- ・お年寄りには生きがいのある仕事があり、野菜が少しでもお金になる、やりがいがあるといい
- ・お年寄りも元気で納税できるように販売ルート、売れる場所、仕組みを作る
- ・面白くてカッコイイ大人がたくさんいる、多様な働き方で成功してる人が多い、健康で笑顔でいられる、生きがいを根羽で感じる魅力ある村
- ・20年後に誰でもご飯が食べられる村民食堂が出来ると良い

### ○子育てしやすい村

- ・若い世代の人達が結婚ができるよう、気軽に出会い、話ができる場の提供
- ・こどもが根羽にいてくれる 住みたい所にいられる村
- ・子供が増えてほしい、そのためにも家族が住みやすい所でないと子供が産まれない。  
村でなくても、近くに働ける場所がある環境がいい。
- ・自動運転の車、空飛ぶ車が出来れば、また未来が見えてくるのではないか。
- ・子供たちの将来の選択肢のひとつになっている
- ・小児科・産婦人科、医療に困らない病院や訪問看護があるといい、移住できると思える場所に。

### ○人口減少への対応・交流

- ・常連さんや根羽のことが好きな村外の人気がつながって根羽のことに関わったりできると良いと思う。
- ・根羽出身者で村の外に出てる人も、きっとどこかで根羽に関心があると思うからそういう人たちも一緒になって。
- ・若い子の感覚や、コロナのせいで今は人が集まったりすることができなくなっている。昔は集会があったり、なんだかんだ人が集まっていた。人と人がつながると良い。
- ・文化的には、愛知県に近いので愛知県とのつながりが生活の中にも増えたらいい。
- ・村にも外から移住してくれる人が増えた。役場の中も新しい人が増えて、もともと根羽村出身の人も少なくなった。とても頑張ってくれているが、より村民のことを考えられるようになるといい。
- ・地区の人としか会話がない、村民とコミュニケーションをとる場があったら良い。人数が少ないほどコミュニケーションは大切。
- ・根羽村の人は出不精なので、そんな村民も楽しめるイベントをしてほしい。
- ・村外から技術やノウハウを持った人達が来ているので、交流を持っていきたい。
- ・消防などで交流ができているが、消防に入っていない人（入らない人も）で村内の移住された方ともつながりを作っていくたい
- ・移住を増やすために、今受け持ってる仕事の情報の部分をしっかり活用して、根羽村のリアルな良い所も悪い所もしっかり発信し、根羽村にマッチする人を呼び込む。
- ・子供が高校・大学に出ているときも交流、繋がりがあること
- ・歓迎会を毎年開く

- ・県民手帳の祭りの情報が載っていて村の情報みてる→フェスティバル、盆踊り絶やさない
- ・村外者や子どもたちに、今暮らしている人が技術や暮らしのコツを教えること
- ・Iターンの人が多く入ってきた（今は受け入れてくれる感じがある）、挑戦して成功している人多い
- ・仕事の選択肢が少ない。マネタイズ、アドバイス、子供・友達が帰ってくる村にしたい。
- ・余剰をくれる、野菜の物々交換、自分に出来ることをお礼にする
- ・IターンやUターン数年で根羽から出て行っちゃう人がいるのはもったいない。
- ・対流的なつながり（一過性でなく交流し合う、山村留学や姉妹都市）
- ・地区によっても受け取り方が違う区別の仕組み ← こういうことが分かるといい
- ・中間組織、教えてくれる場（住みやすい・疎外感がないことが重要）
- ・先に向かっていくには、村の良いところ＝交流が盛んなところをもっと大事にしてていきたい。
- ・コロナになる前はもっと交流が盛んだったので、取り戻したい！
- ・トライアルハウスの独居老人版、都会の人と田舎の人が週末だけ家交換システム
- ・伝統食を学べる場づくり、送迎付きの居酒屋・飲食店の存続、手作り弁当の配達
- ・多世代の交流の場がほしい、ご近所の人達とのつながりあるくらし
- ・皆に声をかける、かけこちゃんとかけおくんが居るといい。背中を押してくれる人がいるといい。
- ・村内向けの広報、デジタル化したものがあるといい。
- ・学校の子供達やお年寄りの方、村民誰でも一緒にご飯が食べられる、交流できる場所

#### ○安心安全で豊かな生活

- ・生活する中で、不便を感じることは多い。けれど、社協による車の送迎サービスがあるので、お年寄りにとってはありがたいと思う。人はどうしても便利な方へ行ってしまうと思うので、村の中ですべてが完結できるようになれば理想的。
- ・交通インフラの課題解決が必要だと思う。村の取り組みをもっと細かく発信することが大事だと思う。
- ・これからお年寄りの割合がもっと増えていくと思うが、同時に免許を返納する人も増える。交通インフラの整備と同時に、オンライン診療のシステムを導入してほしいし、そのシステムを使わなければならなくなる前に、スマホやタブレットを使えるようにしておきたい。
- ・子供が村外へ出て行ってしまったが、その子供が根羽村に親をおいて行っても安心できる、暮らしやすいシステムが出来上がっているといい。
- ・昔は、婦人会（お姑さん世代から子育て世代までの女性）や消防団などコミュニティがしっかりしていたが（所属する人も多く世代間の交流もあった）、今は活動しているのかもわからない程、コミュニティ自体が薄れてしまっている。最近では、Iターン者も増えているので、そういう人と根羽村の方をつなげるコミュニティを作っていてほしい。
- ・生活弱者のための買い物のためのバスの運行は続けてほしい。
- ・道路などのインフラを整備してほしい→国道153号が災害などで塞がってしまうと物流が止まってしまう。村が孤立する。
- ・足腰が悪くなり、移動が困難になった場合を想定して村の交通の便（移動手段）をより改良してほしい。
- ・家から医療機関まで送迎のバス・タクシーなどがあるとありがたい。
- ・近所（仲間）への声掛け、元気？というだけでもいいと思う。
- ・根羽村ですべてが完結してた→根羽村だけで生活できる環境づくりが必要。
- ・車があれば不便感じないが、車が無くても公共交通がもっと便利だといい
- ・今くらい安全安心な村
- ・仕事をするインフラ作り（オンライン診療）
- ・病気のこどもを預かってくれる（娯楽施設）
- ・充実した移送（乗り合いで根羽に無いものを買いに行けるような）
- ・暮らしがよくないと住み続けられない、村が存続していたらいいな
- ・店が続いているればいい、公園があるといい、各家庭にテレビ電話があるといい、災害に負けない村にしたい。
- ・停電がたまにあるので、電力が自給できてる状況、村営住宅のオール電化が廃止されたらいい。
- ・食品等を販売してくれる車があるといい、ロボット支援（重いものを持ったり）
- ・組づきあいが分かりやすくなっているといい。回観板は若い独身者には届いていないところもある。全員が見られるようになっているといい。

### 【学びの村づくり】

#### ○新しい学びの創造

- ・根羽の環境の強みを活かして、山保育を更に充実してほしい
- ・山の中（山で囲まれている中）の利点を活かしてほしい。働く人にとっても、子どもにとっても、預ける人にとっても
- ・学園→将来的に保育園も一緒になるといいね
- ・根羽村に通信制でもいいので、子どもの可能性を広げてくれる高校があるとかなり強みになると思う。
- ・根羽で子供時代を過ごして、外でやっていけるのか？
- ・学歴社会とか言うのはもう古いのかもしれないけど、複式学級で本当に学力は身についているのかなと不安。安城の人もせっかく来てくれるけど、安城の学校へ行った方が学力つくんじゃないかな、と思う。最近塾ができたので、良くなるといいな。
- ・根羽学園に親子留学に来てくれているが、いづれ出ていってしまうので、その子供たちが帰ってしまっても根羽村を思い出せるような取り組みがあるといい。
- ・特別支援学級を根羽の中で取り組んでほしい
- ・外の世界を見ても根羽でしかできなかつたと思える体験ができる教育
- ・急なインターン体験や見学などが来ても大丈夫という事を発信する。
- ・根羽の良さ、少人数であること。いろいろなことができる、個別と一緒に、飛び級とか好きな科目だけで卒業出来る仕組み
- ・山保育やネイティブの取り入れ、独自の学び
- ・高校入試も考えないと！
- ・なかなか学力については難しい
- ・小中ゴルフチーム
- ・部活 ゴルフ部 健康トレーニング部（村内で教えられる人が多い、村外からも講師を招く）
- ・子どもたちが自ら地域に出かけていくのも大事
- ・ユニークな教育、最新の技術をドンドン取り入れる
- ・常に安城市だけじゃなくて海外の留学生がいる。
- ・姉妹都市を作り、ALTによるネイティブクラスを作る。

#### ○大人も学び手

- ・教えてるというより「共に行く」という視点なのかな。
- ・子ども議会とかで、村の課題とか子どものアイデアで解決できる体験をすると、子ども、大人、両方にとってもいい刺激になる。
- ・保育園や学校に高齢者が行く
- ・普通に仕事をしていると学校と地域は繋がらない。
- ・コロナ以降、学校と地域のつながりが薄いように感じる。
- ・部活動や総合学習を地域の人が子供たちに教えている状況を作る
- ・地域の人が頻繁に学校に入り出している、それくらい敷居が低くなるといい
- ・ユニークな取り組みをするなら、どんどんSNS等で発信していく。
- ・今どきの農業のあり方を小林農園で学ばせていただく
- ・今しゃべっていることをドンドン広げる
- ・誰もが自由に学校に行き来出来て、子供たちと交流できる、地域の人が溢れる学園になるといい。
- ・世界と繋がれる学校になりたい。
- ・海外研修や姉妹都市、多様な人達と触れ合えるような仕組み作り

#### ○学びからの期待

- ・根羽村には森が溢れている。地域資源を活かした学びの仕組みが出来るとよい
- ・20年後には森や林業に関するスキルを学べる学園が出来ている、近いうちには森に関する事業が動いている。単独では出来ないので、プロジェクトチームで動けると良い
- ・盆踊りの継続のための後継者育成ができなかったのが心残り、やっていってほしい。
- ・盆踊りを良いものにしていけるとよい
- ・村全体がDXに関して遅れがあるので、役場を中心に皆が関心を持てるといいと思う
- ・職場向けのDX教育・研修が必要。今の社会では発信力が求められている

- ・昔からの文化が残っていたらいい（五平餅やからすみを残したい、食べたい）
- ・部活も年寄りと一緒にできるジムのようなところがほしい
- ・お年寄りがこどもと交流できるような場（こども食堂とか学園ボランティア室とか）
- ・地域資源を活かした活動をドンドンしていく、地域のコーディネーターが地域に入り伝統や文化・学びを継承していく
- ・お祭りの存続
- ・資料館の整備（PR、ビデオ、留学、信玄、古文書）、お祭りの存続

#### 【人と経済が循環する村づくり】

##### ○森林を“宝”と思える未来の実現

- ・スギ、ヒノキばかりなので災害の危険もあると思う。広葉樹を植えて紅葉を楽しめたらいい。
- ・木を使ったものを売り出していくのはいいがもっと長期的に実施していく必要がある。
- ・根羽村は良い材があるからしっかりと製材をしていく。
- ・林業立村の時代のような組合員、村民にお金が入る林業にしなくてはいけない。
- ・先祖の残してきた山林を今後も残せるようにしていかなくてはいけない。
- ・林道傍の間伐だけでなく、深い所なども間伐していく必要がある。
- ・林業を根幹とした生活基盤となる事業の誕生（農林水産省などと連携）
- ・建築に頼らない林業の事業（木の布など）を進めていきたい。
- ・村には林業しかないから林業で利益の出る何かをしたい。
- ・木材の値段が上がっていかないと生活に影響するので上がってほしい。
- ・根羽の一番の物「林業」
- ・遊べる施設を村中に 根羽の木のツリーハウス、アスレチック、平瀬橋付近の整備・公園化
- ・木彫りのお土産、自然体験ツアー 森沢の活用 村営住宅で薪ストーブ 薪買取の仕組み
- ・森林組合の改革 → 木材利用の考え方を考え、材の利用が増えて木材の値があがる
- ・林業、土地の有効活用
- ・森林の活用方法の区分を計画する 団地化（林業）→コストダウン

##### ○農林漁業の推進と鳥獣被害等防除策

- ・かつてやっていた野菜の定期便は良かった。野菜はあまっちゃ捨てるし、形が悪いと捨てちゃう。野菜を取りに来てくれると嬉しい。
- ・農業を教えてくれる先生が根羽にいたらいい。
- ・でも今はYoutubeで全部調べられるから、それで勉強するのもいいかもしれない。
- ・昔作っていたほおづきや矢作川の水を使った米を根羽村の特産品として作ってほしい。
- ・今ある80軒の農家が共同防除（ドローン等を使って）できる体制を整えていきたい
- ・子ども達に物をつくることの楽しさを伝えていくよう、学校田の整備をして欲しい。
- ・そこでできた作物を学校給食に提供するなど、農業を身近なものにして欲しい。
- ・酪農について、今後どうしていくのか考えていきたい。
- ・農業で若者、高齢者の働く場所を確保する。DENSOがやっているようなロボットを使った農業で高齢者に管理させる等考えが必要。
- ・自分たちで作ったものが上手に売れる仕組みづくり。
- ・畑を荒らしても困るのである程度の利益が見込める仕組み。
- ・冬場の仕事の開発（冬も育つ野菜）が必要
- ・空いた農地を取りまとめ、農業をしたい人に斡旋し、一緒に農業をする仕事
- ・農業をベースに研修し、独立をサポートする。新作物への挑戦や違う他業種との組み合わせの実験台になる。トマトの知名度をより上げて根羽ブランドをつくり、根羽の農業の良さをできる限り引き上げる。それを他の作物、根羽で従来作っているものに利用してもらう。（販売組織設立など）総じて、農業分野なら何でも手伝いたい。
- ・大学の合宿所、農業体験、農家民泊の復活
- ・根羽産の野菜を残したい → 畜産に力を入れる、遊休農地の解消 → たい肥が出来ることで農業が活性化し、従業員100人以上の会社ができる
- ・米の心配がない、農林業者の増加、農產品地元販売の活性化
- ・収穫体験や観光農園をやって、お客様がくる場所を作り、住む人が生まれる流れを作る

## ○滞在型事業推進や広域連携

- ・池の平を有効活用してほしい。（キャンプ場など）
- ・大杉の周りを整備して観光を充実させてほしい。ネバーランドは遠いので田島や町辺りにネバーランドのような施設があったほうが良い。  
旧庁舎と、川の反対側の広場を利用してみてはどうか。そのような計画が昔あったようだ。
- ・ネバーランドもいいが、村外の方が気軽に来られる場所になるといい。
- ・無人販売などの販売できるルートの開拓を。どうもろこしやみょうがはどの方も作っておられるので。
- ・村内・県内・県外の50件門松を作っている。評判であるのが誇りだ。
- ・住宅にお金をかけるのも良いが平瀬橋に遊ぶ場所を作るなど観光を目的に遊べる場所があるといい。
- ・宿泊施設がほしい、飲食店がたくさんある
- ・天候に左右されない仕事、1シーズンで1年暮らせるライフスタイル 小ロット高収入
- ・トウモロコシがとてもいいものだけど、期間が限定されるので、加工品が出せるといい。
- ・原木シイタケ 海外の富裕層向けに販売
- ・花の栽培が元々は盛んだった。花の栽培指導に来てもらい、サブスクのように販売
- ・やってくれる人がいるのが大事、そのためには稼げる良い形が作れるといい。
- ・村の食文化、ネバーランドの新規事業、村の商店を残したい → オリジナル商品の開発 → 通過点ではなく目的地になる
- ・今あるお店が続いているといい
- ・誰もお金に困らない、ドローンでの配達、マルシェの日がある、今あるお店があって増えていると、他県からの観光・体験・人材交流、水源の水が収入源になっている

## ○担い手と後継者の確保

- ・若い世代の人たちの働き口があってほしい。
- ・雇用がないと人がいない。いろいろな雇用があってほしい。
- ・働く場所があれば子供も帰ってくるのでは？
- ・日本に限らず、海外の人も来てくれたらいい。
- ・働く場所をきちんと整備して、若い人を呼び込むとかしないといけない。
- ・村は、そういう苦労をせずに、いいところだけ得ようとしているように見える。せっかく外から来てくれてもきちんと整備されていない部分が多くて中途半端で、定住してくれないので。
- ・店を開く場所の確保。
- ・国道沿いは難しいかな。駐車場も欲しいし。
- ・リニア開通に伴い、工場誘致も手なのでは（山も大切だけど働く場所を作るのも大切）
- ・若い人が残るために村内で仕事が必要。
- ・人が帰ってくるためには働く場所が必要。
- ・仕事を受注したときに村内で頼めるような仕組み、人材バンク的な人同士を繋げるもの
- ・働く場所であったり、現在リモート等の新たな働き方も選択できるので、こうした環境を整備する必要はあると思う
- ・Iターンでも帰ってきて生活できる仕組みづくりをする（働き口の確保）
- ・何か面白いことをやっている人、やろうとしている人のところに人は集まるので、軸がある人が楽しめるような環境をつくる
- ・ディープな生活を求める、自分で価値を見出せる人が集まる環境をつくる
- ・村民タクシー、異業種交流会
- ・飲食店減らしたくない（後継者？）
- ・後継者を育てられる環境、Iターン・Uターン者の家族の仕事がある、働き手がたくさんいる
- ・調理師免許とか狩猟免許の取得補助をお金だけでなく弟子的に。

### ○空き家利活用

- ・墓や山は生きてるときにどうにでもできる。自分もそうだが、これからもっと家のことで困る人が増える。最後まで住む場所だから。空き家対策を村でも考えてほしい。これ以上空き家が増えて、廃墟みたいな住宅が増えると村の景観も悪い。
- ・今はアパートが多いけどIターンの人が、住宅や田んぼ、畑を借りて数年後に所有出来る仕組みがあると定住につながると思う。
- ・空き家の有効活用、I・Uターン者への補助が広がっていると若い世代の移住・定住につながる。
- ・空き家は多いけどリフォームが必要だったり、譲りたい人と譲ってほしい人がかみ合わなかったりなかなか難しいので、補助金をはじめ、整備したらいいのでは。
- ・古い住宅の改修と再利用ができると良い。
- ・やりたいことがある人、実際にやる人の間に入って、人や事象をつなげることができると思う。その場所をつくることができると思う。
- ・空き家をシミュレーションゴルフ場に
- ・所有者の意向調査（管理しきれない土地や山がどれだけ、どこにあるのか？）
- ・情報の共有が大事（皆で可能性や方法を考えることが出来る）
- ・空き家の活用をするには、どこに相談に行ったら良いかを周知する。
- ・IT・デジタルでの管理（農地や古民家）

### ○環境保全（森林、河川、ごみ、住宅）

- ・空気がきれいで、水も豊富なのがこの村のいいところ。これを守っていってほしい。
- ・根羽川がきれいなので昔は川遊びをしたが続いてほしい。
- ・ピンや蛍光灯など一般家庭から出る量が少量のものは袋が溜まらない。
- ・地区で一括して出すなり役場に回収コーナーを設けるなどの工夫を。
- ・根羽村と全く同じ自然環境ではなく村の自然を活かした仕事を作り出す
- ・根羽には谷川、川の流れがある ミネラルの多い空気 根羽一周散策歩道 河川周辺環境整備

### ○つながりの豊かさを活かした村づくり

- ・下流域の方との連携、安城市の市民団体の人たちと交流中。また、売木や平谷の地域おこし協力隊の人ともミーティングを重ね、学校以外に自由に課題追究できる環境づくり。
- ・村内の事業者のつながりで村内にお金がまわる仕組み、村内の事業者のつながりで村内にお金がまわる仕組み
- ・海外の姉妹都市づくり

### 【その他】

- ・何か根羽に魅力を作らないと、わざわざ車で根羽に寄ってくれる人がいなくなると思うので、最近外から来た若い人たちから、根羽のどこに魅力を感じたか、楽しいことはなにか等聞いて、反映させていくべき。
- ・一人や少人数でその方法を考えても、あまり意味がないと思う。みんなの知恵を集めて、自分で思いつかないような意見を知り、話し合っていくのが大切だと思う。
- ・根羽村を活気ある村にしたい。そのためには、国の政策に加担していくことが大切。（例えば、原子力発電の廃棄物を引き受けるなど。）雇用が生まれてたくさん的人が村に集まると思う。
- ・根羽村がどういう村かを見直して近隣の他村との人柄や土地柄の違いを比べてみるのはおもしろいのでは。
- ・村は村民一人一人に目を向けるべき。今回のインタビューのような活動は良い。村民の意見を聞き反映する活動は続けてほしい。
- ・根羽村の魅力、地域の宝を探し活用、空き家周辺の手入れをし、きれいな環境を整える
- ・大人たちの意見だけではなく、小中高校生の根羽村でやりたいことや、必要なこと、などを聞いてみては？
- ・恥ずかしくて親にいえないことや、ひそかに考えてる夢などを公開しないのを前提に聞いてみる等。
- ・自分たちのやりたいことが都会にしかなければ出て行ってしまう。根羽でできるやりたいことを見つけられる、与えてあげられれば良いと思う。
- ・テレビがなくケーブルテレビが見れない人もいるので村のHPで同じことを知れるように。
- ・村からの情報の発信と共有（イベントなどの）
- ・村について懇談会のような堅い雰囲気ではなく、やわらかな雰囲気のグループワークを村の有志発信で行ってみたらどうか（年1回でよい）
- ・（移住者として）魅力に触れる機会がほしい
- ・失敗を許してくれる→失敗を失敗だと思わない
- ・根羽が〇〇を目指そうなどのサポートするよ（挑戦できる仕組） 根羽村に来て得られるものを一つ。

- ・村民への情報、外から見た村が分かりづらい。HP充実、村内外の人の意見聞く。
- ・夢を語ってもらって 情報をしっかり発信していく
- ・項目関係なく話に出た要素（雑草、カメムシ、セイタカアワダチソウ、ムネバタ、吊り橋の先、ネバーランド、花街道、通行手形、甲子園、ジビエ、食育体験、牛に乗る牛耕、とうもろこし、リンゴなどの果樹、リゾートホテル、星空、虫取り、カジノ、スナック、畜産・ジビエを使ったレストラン、別荘、茶臼湖、公衆浴場、ラーメン屋など）

**【小さな村の生き残り会議 in ナゴヤ】**

小さな村でも村の内外を問わず多くの人とのいろんなつながりがあふれています。  
村と関わる皆さんと村の外から見た根羽村、こんなことがあると素敵ではないかというたくさんのアイデアをいただきました。



**【根羽村のことをどう思っているか、印象はどうか】**

- ・原風景的で静かな環境
- ・川・水がきれいな場所という印象
- ・人情味があったり面白かったりとっても素敵な人が多く気配りがある
- ・遠くてあまり通らない
- ・何しに行って良いか分からない
- ・「ネバ」がネバーギブアップやネバーランドなどの名前に使えてズルい
- ・村民850人へのインタビューの実行はすごいこと

**【どんな動きがあると良い状態に近づけるか、楽しいか。自分は何ができるか】**

○根羽の人のあたたかさに焦点を置き根羽の良さがなくなる発展はNGという前提で、「村」のあたたかさ、「村」という住み方など  
村をアピールしていくアイデア

- ・とことんやさしい村、ここが本当のネバーランドとして、キャリアチェンジのタイミングでの一時移住をトレンドにする。
- ・寝ながら森林浴できるスポットや星に囲まれたやさしい夜のある村としてアピールする。
- ・「根羽野菜」など良いもの、プライドになるブランドを作る
- ・今回のイベントをスケールアップしていき、友達をどんどん作っていくことが良いのではないか
- ・新しくおもしろい条例を作つてみたらどうか。例えばクリエイター特区（その他作家などの話も出た）を作る。クリエイターに優しい村に。クリエイターには宿や野菜を分けてあげるなど生活サポートをして、クリエイターの成功をサポートし、クリエイターには今後成功後村に貢献してもらう。等

○「源」体験の出来る村として村外のこと学び、チャレンジして次に繋げていくアクションの提案

- ・根羽村に恩送りのような思いを持っている人たちを繋げられるといい。
  - ・上下流交流のワークショップ、小中高交えて今回のようなワークショップを！
  - ・森川海がつながるSUP大会－源流に近いと川が浅い、下流すぎるとつまらない  
←根羽材でラフティングボードをつくる 「それってかっこよくない？！」
  - ・若手のクリエイター・アーティストがものでもらったら、アートで返す通りを作る。  
←「悪い人にはできない！」
  - ・「なんでもやる課」、「未来の木材課」
  - ・対価にとらわれない、お金に換えられない価値あるモノ、コトの創出
  - ・「木材」はただのもので、「木財」にするかどうかは"人"次第
- 未来のある子供が手に取るようなモノ・コトに根羽スギ・根羽ヒノキを使いたい。  
「自分のとこの祭りを盛り上げたいなら、ヨソの祭りを手伝いに行け。恩返しに手伝いに来てくれる。」

○それぞれの根羽村との関わりから、より踏み込んだ具体的な活動のアイデア

- ・根羽村では60～80代の女性が素敵な活動（杉っ子餅や一時期村で出来なかつたお葬式を村で出来るようにお葬式の料理をつくるグループなど）をしていた。活動のバトン渡しができていないので、孫のように子供を可愛がる村民になじむバトンタッチができると良い。
- ・子どもたちと交流する自然環境での学び。  
非認知能力が高めるために自然と関わる、都会では学ばせてもらえないところを根羽村で補ってもらう。サッカーやラグビーとセットの環境として、土のグラウンドではなく芝生のグラウンドがいい。グリーンハウス森沢がもっと使用できればいい。
- ・してもらうばかりだと気が引けるので、訪ねる側が持ち込めて役に立てればいいな。恩返し、自分がもっているスキルでチャレンジしたい。1回1回の企画は難しいので、くりやとかで計画してくれれば参加しやすい。
- ・道は地域の魅力につながるのではないか。道を知ってもらいたいという歩くイベントについて、移住を考えている人に参加してもらったり、塩を馬で運んでみたり、体験することは大事なテーマになってくれる

○今後のネバーランドがどんな場所になると良いか、これまで目指してきた「最強の経由地」から、今後、目指す目的地としてのネバーランド像を主なテーマとしてお話しいただきました。

- ・森とつながれる、森を体験できる
- ・チェンソータンク
- ・芝生広場や小川など活用したい
- ・森の中の美術館（常設ではなく期間限定の特設
- ・映えスポット（お金の落としどころの設計が肝心）
- ・マナーの良いコスプレ撮影
- ・レストランのメニューを根羽らしいものに変えたほうが良い
- ・観光以外の使い方（企業研修、ワーケーション、コワーキングスペース）
- ・ただし、観光でたくさんの人々に来てほしいわけではなく、村の人々が大事にしている暮らしの雰囲気は守りたい
- ・地区とつながる企画、村民も集える場所にしたい
- ・これまでネバーランド単独で企画してきたが、いろいろつながりから連携してアイデアを生み出していきたい
- ・根羽出身の大学生などが長期休暇になると帰省してアルバイトで手伝ってくれる、今後その子たちが戻ってきてネバーランドで働いてくれると良い。帰省してアルバイトしている時に、今の村を知ることができる。



発行者：根羽村

〒395-0701 長野県下伊那郡根羽村2131-1

TEL 0265-49-2111

URL <https://www.nebamura.jp/>